令和５年度 私立短期大学入試広報担当者研修会（意見交流分科会）報告書

白梅学園短期大学　西野 輝

【Ⅰ　意見交流分科会の目的】

全国短期大学の入試広報担当者は極めて厳しい学生募集環境下にある。本分科会では参加者同士が業務上の課題を共有し、講演会で得た知識を深めつつ募集環境の改善へと向けた最適解を共に考え意見交流をする。また、学生募集の取り組み事例とその成果・効果等を参加者が情報交換することで自学の業務に活かすヒントや気づきを得る場とする。

【Ⅱ　実施方法】　※オンライン開催。Zoom のブレイクアウトルームを使用。

講演Ⅰ・Ⅱの各終了後に 1 グループ 5 名程度で意見交流分科会を実施。研修会の質を高めるため、全体進行役より講演会の内容を踏まえた分科会テーマが提示された。分科会の進行役は実施回ごとに設定。状況把握のため運営委員 6 名が研修会参加者として分科会に入った（他の運営委員は待機し、質問等に対応）。

【Ⅲ　実施内容】

◆意見交流分科会①（11:10～12:10）

60 分間で実施。各委員の報告から、講演会が参加者にとって質の高い学びの場であったこと、そこで得た情報に基づく有意義な分科会であったことが分かる。

〈テーマ 1：講演Ⅰの感想、自学の SNS・WEB サイトの悩み〉

募集戦略をバックキャストして考えること、ナーチャリングの重要性、SNS ツールの使い分け、セグメントやハッシュタグの活用が話題となっている。一方、課題として、登録者・閲覧者を増やすための高校生目線の情報や高校生ニーズを把握する方法が分からない、SNS や WEB 運用に係るコストとマンパワーの確保が困難との意見が挙がっている。

〈テーマ 2：自分で出来そうなこと、持ち帰れそうなこと〉

在学生を活用した情報発信を考える、大学の WEB ページで公開されている情報を活用し SNS や WEB の更新頻度を上げていく、情報発信の目的・目標の再設定、セグメントやハッシュタグを再考する、魅力ある投稿画像の検討といった意見が出されており、参加者は具体的な改善点に気づき行動するきっかけを掴んでいる。

◆意見交流分科会②（14:10～14:50）

40 分間で実施。各委員の報告からテーマが参加者にとって関心の高い内容で活発な意見交換が行われていたことが分かる。

〈テーマ 1：オープンキャンパスの集客と運営について〉

国内での新型コロナウィルスの情勢から、多くの大学で対面実施へ戻っている。集客（複数回参加者）を増やすため、来校者アンケートによるニーズの把握、高校

低学年や保護者、短大志望者といった対象者別のイベント開催、高等学校の探究学習の一助となるプログラムなど、各校の創意工夫で企画内容や進行方法の見直しが図られ実施されている。PR は SNS や WEB、DM（メールマガジンなどを含む）、高校訪問などを通じて行っているが、広報予算のコストカットに苦慮する学校は多く、より一層の SNS ツールの活用をしたいとの意思がある。実施・運用面では学生を企画・運営スタッフとして活用し、高校生に近い立場で自校の魅力を最大限伝えようとしている。

〈テーマ２：短期大学の募集強化のために自分ができたこと、できること〉

短期大学の学習成果として資格取得や質の高い就職・進学（編入学制度）といった PR、イベント運営や広報活動における自校のニーズ把握とターゲティング及びセグメンテーション、受験生一人ひとりと丁寧に関わり出願へ結びつけたとする振り返りなどがあった。２つの講演会を踏まえ、受験生に選ばれる短期大学になるためには SNS ツールの活用による自校の認知拡大とナーチャリングへの取り組みが有効との考えから、今後は組織内に ICT や DX 戦略を担う人材が必要との意見もあった。

【Ⅳ　総括】

参加者アンケートの結果より、「意見交流分科会への評価」「満足度の高い議論の有無」「1 グループを５名程度としたこと（前回は１グループ４名）」については前回と同様に 90%の参加者より高い評価を受けた。各講演会終了後に意見交流分科会を設け、講演内容の振り返りと各校における現状の照らし合わせができる段取りが評価され、自由記述には「有意義だった」「活発な意見交換ができた」との感想が目立つ。

前回のアンケート結果で 60%に留まった「適切な意見交流分科会の設定時間だった」とする評価は今回 76%まで改善したが、分科会は他校から貴重な情報が得られる場だけに、「時間をもう少し長く取って欲しい」との希望や、少数ながら「対面式を復活して欲しい」との回答があった。さらに、本研修会を通じた人的ネットワーク構築のため、グループ内での連絡先交換が短時間でできる仕組みがあってもよいとの意見があった。

総じて、意見交流分科会は立場を超えて課題を共有し、共に考え、研鑽し合える有意義な場となった事がアンケート結果から報告できる。

なお、意見交流分科会で出された各校の課題は、分科会テーマ自体が講演内容を踏まえたものであることから、参加者からチャットで受け付けた質問の回答を共有することで対応できる。こうしたアフターケアも、多忙な入試広報担当者が短時間で効率的に学べる本研修会の利点の一つとされる。